

Israel Monthly Trends

2026年9月

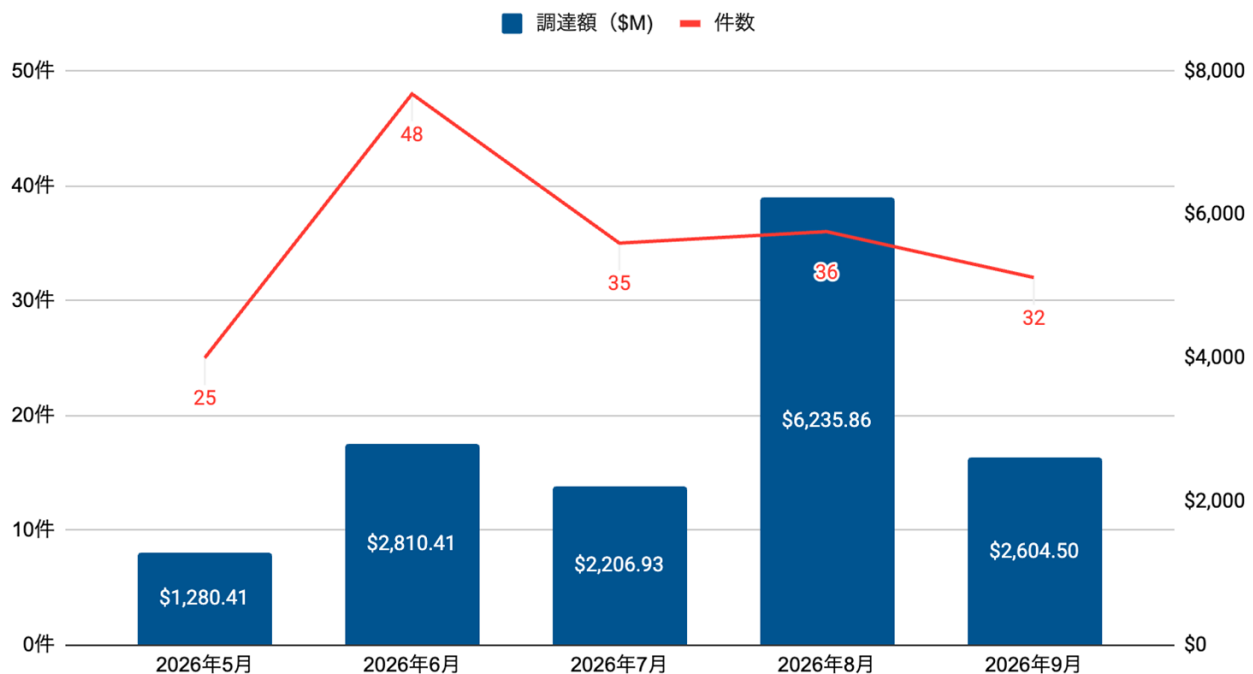
目次

- | | | |
|----|-----------------------|-----|
| 1. | イスラエルの現在の状況_9月 | p.2 |
| 2. | 今月の注目テーマ： 高齢者のQOL向上技術 | p.3 |
| 3. | 協業事例紹介 | p.4 |

1. イスラエルの現在の状況_9月

2026年8月16日から2026年9月15日におけるスタートアップの資金調達額は、32件・総額26億450万ドルであった。前期（2026年7月16日から8月15日）の36件・総額62億3,586万ドルと比べ、案件数は4件（11.1%）減少し、調達総額は36億3,136万ドル（58.2%）減少した。1件当たりの平均調達額は約8,139万ドルとなり、前期の約1億7,322万ドルから約53.0%減少した。

イスラエル・ハイテク企業 月別資金調達推移



出典：IVC Data（2026年9月16日アクセス）を基にJakore作成

本レポートの毎月のデータ収集期間は、前月16日から当月15日までとなる。

当該期間においては、資金調達額ベースでEnterprise Software & Infrastructure分野が引き続き資金流入を牽引し、Consumer-Oriented SoftwareやHardware & Industrial分野でも大型調達がみられた。特に、WonderfulはシリーズCで5億5,000万ドル、AppsFlyerはデットファイナンスで4億ドル、UpwindはシリーズCで3億ドル、CylakeはシリーズAで2億4,500万ドルを調達した。これらの大型案件が資金流入を支えたものの、前期にみられたSafe Superintelligenceによる50億ドル規模の大型調達がなかったことから、調達総額は前期を大きく下回る結果となった。

2. 今月の注目テーマ：高齢者のQOL向上技術

高齢者のQOL向上技術とは、高齢者の日常生活に自然に溶け込み、利用者の操作負担を抑える受動・不可視型のQOL向上技術を指す。本稿では、日本・欧州・イスラエルの動向を踏まえ、非接触センシング、スマートテキスタイル、転倒外傷軽減素材などを対象に、実装条件、規制、事業モデルまで整理する。

主要な取り組みと成果

イスラエルでは、高齢者のQOL向上技術を、利用者に新たな操作を求める機器ではなく、日常生活における負担や不便を軽減する受動・不可視型の生活インフラとして捉えている。臨床、セキュリティ、センサー産業で培われた発想を民生向けQOL分野へ展開しており、特に非接触・カメラレスセンシングと遠隔ケアに強みを有している。

Neteeraはレーダー方式で衣服や寝具越しに心拍・呼吸などを継続取得し、患者や介護者の介入を必要としない遠隔患者モニタリングを展開している。Vayyarは4Dレーダーで、カメラを使用せずに転倒検知や活動モニタリングを行う。Essence SmartCareはIoTセンサーとAIを組み合わせ、日常行動の変化から異常兆候を捉え、予防的対応や24時間の見守りを支援する。Sensi.aiは生活音や会話をAIで分析し、日常パターンからの逸脱や異常兆候を検知して家族や事業者へ通知する。こうした技術は、装着や頻繁な操作への依存を抑え、センサー、分析、アラートをケア業務に組み込む点に特徴がある。各社が非接触・非カメラ型の継続モニタリングや異常検知を実用化しており、ケア運用と一体化したプラットフォームとして展開する動きがみられる。また、デジタルヘルス基盤と自治体主導の高齢者施策を背景として、新技術の実証が進められている一方、プライバシーと信頼の確保が導入成否を左右するとされる。

今後の展望

今後の有望領域として、睡眠・呼吸・機能低下の非接触モニタリング、ヒッププロテクターと衝撃吸収床材、洗濯可能なスマートテキスタイルが挙げられている。イスラエルでは自治体・医療機関との連携を入口に、ベッド・室内の受動センシング、退院後モニタリング、電子カルテとのデータ連携へ段階的に拡張する方向性が示されている。今後は、イベント通知や縦断的なトレンド要約を医療・介護の意思決定へ統合することが想定される。一方、プライバシー、誤報管理、規制対応、相互運用性への対応が前提であり、ケア現場の負担を抑える設計と信頼確保、素材知財や製造再現性への投資も重要となる。

出典：[Tech Time \(2025年3月\)](#)

3. 高齢者のQOL向上技術の協業事例紹介

●Vayyar Care × Whzan Digital Health (2022年10月)

Vayyar CareはWhzan Digital Healthと戦略的提携を締結し、非接触転倒検知と活動データをWhzanのケアダッシュボードとWhzAppに統合した。介護施設や病院、社会ケア利用者向けに、利用者の活動状況や転倒リスクの把握を支援し、ケアの質向上や業務効率化を図る取り組みである。

参考：PR Newswire (2022年10月)



Vayyar Care (<https://vayyar.com/>)

4Dイメージングレーダー・オン・チップ技術を活用し、非接触での転倒検知や活動状況の把握を可能とするセンシングソリューションを提供するイスラエル企業である。カメラを使用しないためプライバシーへの配慮が可能であり、高齢者施設や在宅ケア向けの見守りサービスなどに活用されている。

●Sensi.AI × Caring Senior Service (2024年06月)

Sensi.AIはCaring Senior Serviceと協業し、同社が導入した24時間稼働のAIケアプラットフォームを通じて、高齢者の日常生活の継続的なモニタリングを支援している。導入後は顧客のサービス利用期間の延長がみられたほか、転倒や服薬ミスなどの重要なアラートに対する迅速な対応にも活用されている。

参考：PR Newswire (2024年6月)



Sensi.AI (<https://www.sensi.ai/>)

音声AIを活用した24時間稼働のケアインテリジェンス基盤を提供するイスラエル企業である。生活音や会話を継続的に分析し、高齢者の生活状況の把握や異常兆候の検知、介護事業者や家族への通知を通じて、高齢者ケアの質向上を支援している。

●Essence SmartCare × Telekom Slovenije (2017年03月)

Essence SmartCareはTelekom Slovenijeと提携し、高齢者の自立生活を支援する遠隔ケアソリューション「Care@Home」をスロベニア市場で提供することを発表した。同ソリューションは、利用者の行動パターンを継続的に分析し、異常兆候や重要な事象を検知した際に、家族や医療・介護関係者へ通知する仕組みを備えている。

参考：PR Newswire (2017年3月)



Essence SmartCare (<https://www.essencesmartcare.com/>)

高齢者向けのIoT・デジタルヘルスソリューションを提供するイスラエル企業である。Care@Homeをはじめ、転倒検知センサーや活動モニタリング技術を活用し、高齢者の自立生活支援と遠隔ケアの実現に取り組んでいる。